



平成24年度
ビジットおきなわ計画

—世界水準の観光リゾート地の形成に向けて—



沖縄県文化観光スポーツ部

ビジットおきなわ計画とは

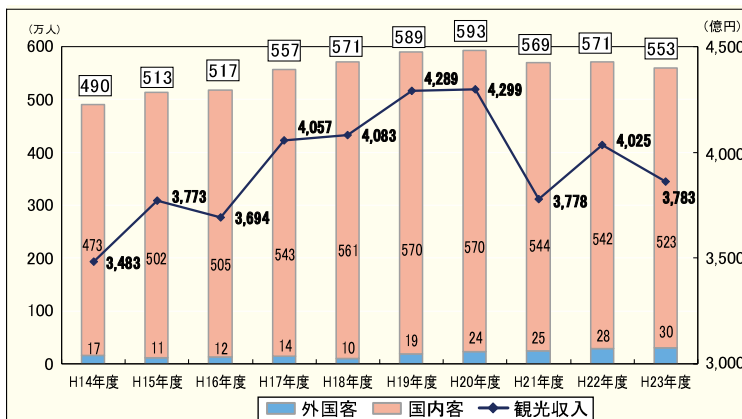
「ビジットおきなわ計画」は、長期計画である「沖縄21世紀ビジョン基本計画」、「沖縄県観光振興基本計画」に基づき、単年度ごとの数値目標を設定した具体的な誘客行動計画で、平成19年度より毎年度策定しています。

沖縄観光の現況

1 入域観光客数・観光収入の推移

平成23年度の観光客数は553万人、観光収入は3,783億円と前年度実績を下回った。

注) 四捨五入のため、合計が一致しない場合がある。

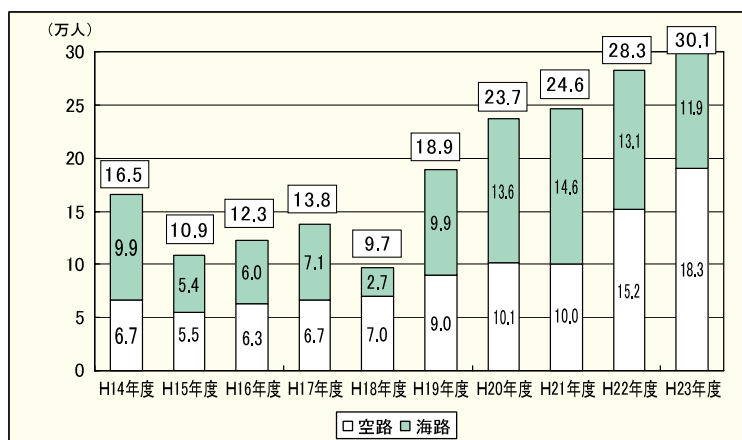


2 外国人観光客数の推移

平成23年度の外国人観光客数は、過去最高の30万人となった。

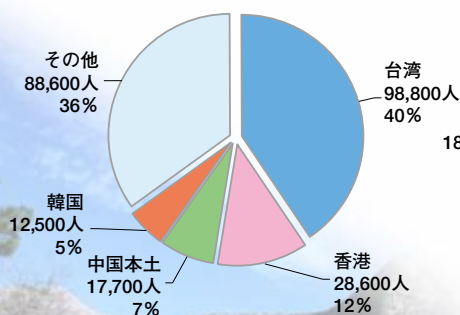
海路については前年度を下回るものの、空路では、定期便の増加などから前年度を上回った。

注) 四捨五入のため、合計が一致しない場合がある。

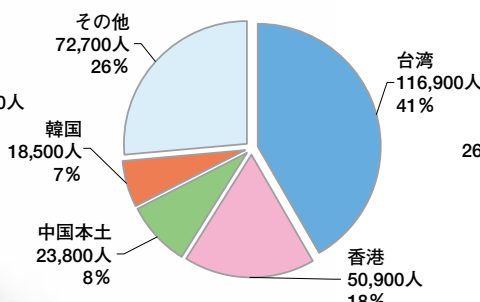


3 外国人観光客の国籍別構成比

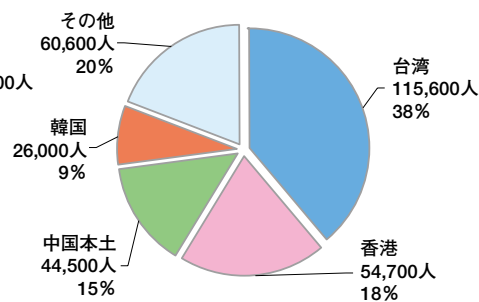
平成21年度



平成22年度



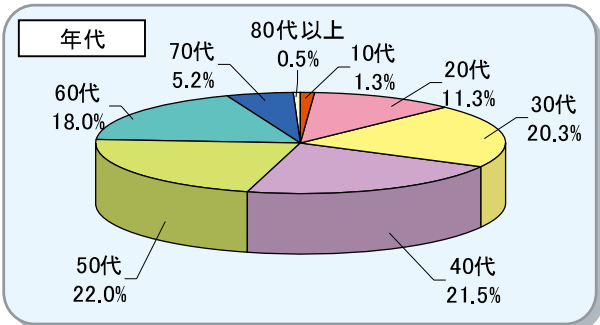
平成23年度



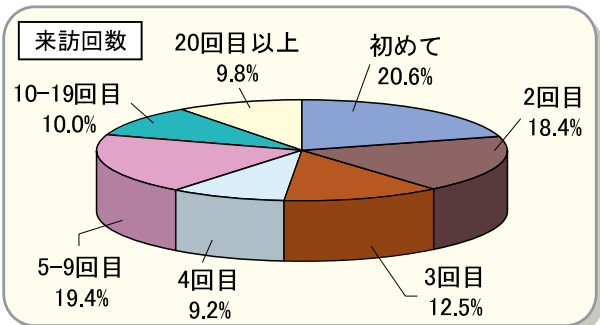
4 アンケート回答者から見た観光客の属性

航空機利用の観光客を対象とした沖縄県実施のH23年度アンケート調査結果（暫定値）による。

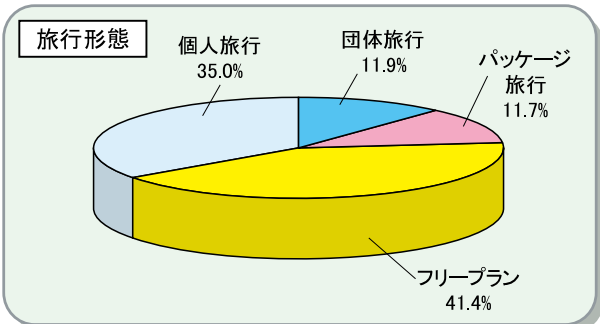
国内客（修学旅行生を除く）



「30代」から「50代」にかけてはそれぞれ約2割を占めている。



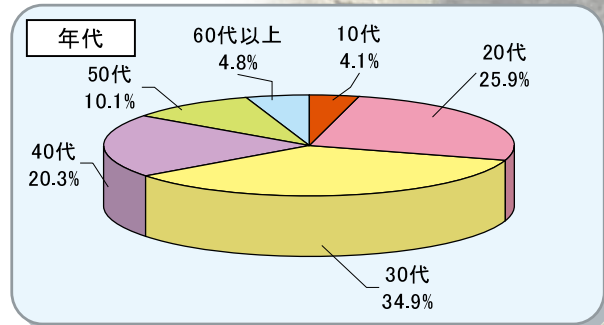
「初めて」が20.6%、リピーター比率は79.4%となっている。



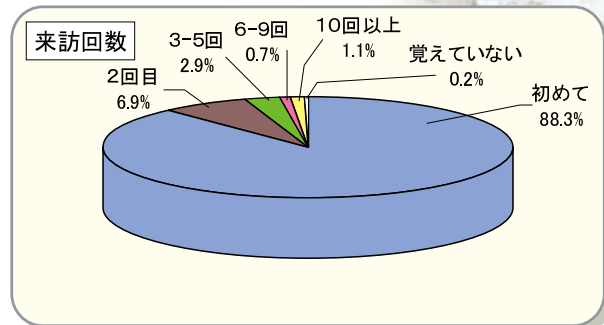
「フリープラン」が最も多く、4割を占めている。

注) 四捨五入のため、合計が一致しない場合がある。

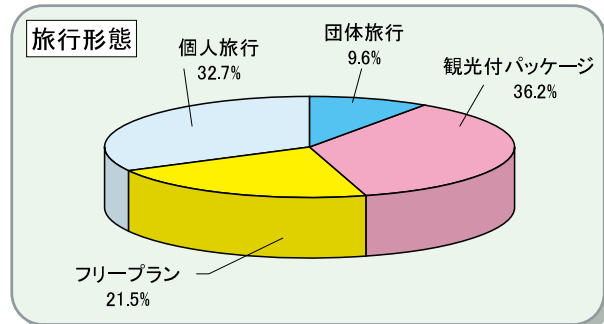
外国人客



「30代」が最も多く、34.9%となっている。



「初めて」が88.3%、リピーター比率は11.7%となっている。

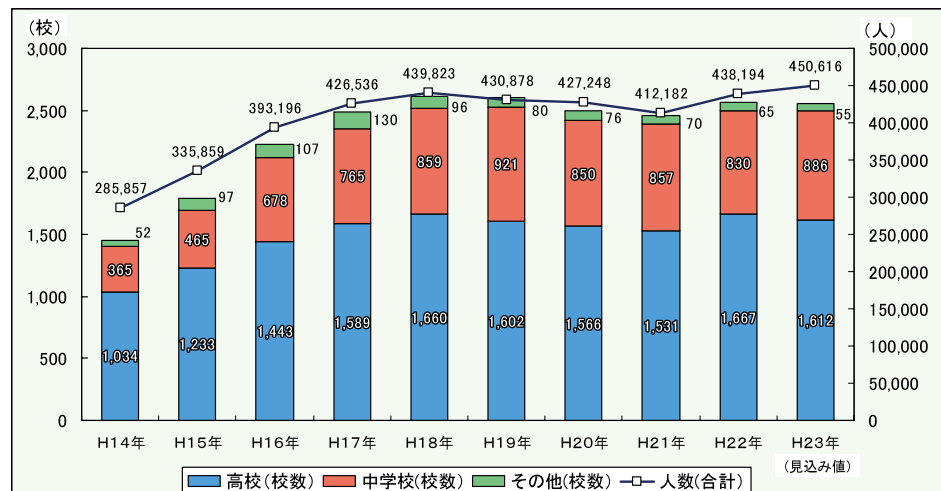


「観光付パッケージ」が最も多く、36.2%となっている。

5 修学旅行の動向

平成23年の沖縄への修学旅行の校数及び人数は、2,553校、450,616人となる見込み。

注) H23年の数値は見込み値。



平成24年度の数値目標と誘客戦略

■数値目標

項目	平成24年度 目標値	(対前年度)	平成23年度
観光収入	4,700 億円	(24.2%)	3,783 億円
観光客一人当たりの県内消費額	75,000 円	(9.6%)	68,427円
平均滞在日数	3.95 日	(0.16日)	3.79日
人泊数	1,840 万人泊	(18.6%)	1,552万人泊
入域観光客数	620 万人	(12.1%)	553 万人
(うち外国人観光客数)	45 万人	(50.0%)	30 万人

■誘客戦略

平成24年度の市場環境と誘客戦略の概要

- ・平成23年度後半からは、中国を始めとするアジアからの観光客が大幅に増加するなど、東日本大震災の影響を脱し明るい兆しが出始めているが、円高や世界経済の減速懸念など、外部環境は不確実性が高い状況となっている。
- ・平成24年度は、市場特性に対応した誘客活動を展開し、海外における認知度向上や、国内における安定的な誘客を図っていく。
- ・また、離島観光の推進や、沖縄の文化や芸能、スポーツなどを活用した付加価値の高い旅行メニューを推進するとともに、観光客受入体制の整備を強化していく。
- ・これらの取り組みを促進するため、県庁各部局間や市町村、(財)沖縄観光コンベンションビューロー、地域の観光協会等との連携を図り、推進体制の充実強化を図っていく。
- ・さらに、ビザの緩和や着陸料の低減等、制度の改善に関する国への要望等も引き続き実施し、旅行しやすい環境作りに取り組む。

平成24年度の主な施策展開

【戦略1】市場特性に対応した誘客活動の展開

《1. 交通アクセスの拡充・強化》

- (1) 中国内陸部や東南アジア等、各地域からチャーター便を誘致するため、チャーター便の運行経費や旅行商品の造成等を支援する。
- (2) 新規海外就航路線の早期安定運航や、既存海外航空路線の搭乗者拡大を促進するため、運航経費を支援するほか、航空会社とのタイアップ広告等を実施する。
- (3) 国内線を外国人観光客の拡大に活用するため、乗り継ぎ便による旅行商品の造成を支援する。
- (4) クルーズ船の寄港を促進するため、クルーズ船運航会社へのセールス活動を行うほか、キーパーソンの招へいや入港経費の支援等を実施する。

《2. 海外旅行市場における認知度向上》

[2-1 海外の観光業界における認知度向上]

- (1) 重点市場（台湾、韓国、中国、香港）に加え、東南アジアや欧米豪露等における旅行業界を対象とした旅行博への出展、セミナーの開催等に取り組む。
- (2) 海外旅行会社のキーパーソンの招へいや県内事業者の海外商談支援、航空会社・旅行事業者とのタイアッププロモーション等に取り組む。
- (3) （公財）沖縄県産業振興公社や（財）沖縄観光コンベンションビューローの海外事務所、海外委託駐在員を活用し、日常的なセールス活動や、県内事業者と連携した取組み等を推進する。

[2-2 海外の一般消費者における認知度向上]

- (1) 沖縄ロケ映画・ドラマ等の誘致に取り組むほか、重点市場を中心に、一般向け旅行博や市場特性を踏まえたイベントへの出展、海外メディアの招へい等を実施する。
- (2) 観光情報ウェブサイト（おきなわ物語）における動画・静止画コンテンツの拡充や市場特性を踏まえたきめ細かな情報発信のほか、SNS等を活用した情報発信を促進する。
- (3) 訪日中の外国人観光客に沖縄をアピールし、次の訪問地としての意識向上を促進するため、国内主要観光地における広告等を実施する。

《3. 国内観光客の安定的な確保》

- (1) 国内市場において、年間を通じたプロモーションに加え、子育てが一段落した世代等ターゲットを特定した季節ごとのきめ細やかなプロモーションを実施するほか、修学旅行の誘致等に取り組む。
- (2) 修学旅行やMICE等の団体旅行者の個人観光客としての再訪を促進するとともに、リピーターの特性を踏まえた誘客を図るほか、若年層をはじめとする沖縄旅行未経験者市場の開拓を図る。
- (3) 県内各地の取組みで創出された着地型メニューの情報の発信等について、ホテル、観光施設や旅行会社との連携を強化する等、体制・しくみの構築に努める。

【戦略2】 離島観光の推進

- (1) 国内外からの離島チャーター便利用旅行商品の造成を支援し、各地域からチャーター便を誘致するほか、定期航空路線開設に向けたセールス活動を展開する。
- (2) 離島独自のプロモーション活動と全県的な展開との連動性を高めるとともに、旅行市場を踏まえたきめ細かな情報の発信、離島旅行商品の造成を促進するほか、沖縄本島の主要観光地で広告等を実施し、県民を含めた離島旅行の意識向上に取り組む。
- (3) 離島の魅力を投稿できる参加型専用サイトによる情報収集・発信及びこれらの情報等の活用による観光メニューの造成を推進するとともに、観光情報ウェブサイト（おきなわ物語）における離島情報の拡充に取り組む。
- (4) 地元と連携し、新石垣空港開港に合わせた路線誘致や新たな旅行商品造成等を促進するほか、受入体制拡充のため外国人観光客の満足度向上のためのセミナー等を開催する。

【戦略3】 沖縄観光ブランド力の強化

《1. 新たな成長分野への支援》

- (1) 文化・芸能等を活用した観光誘客事業を拡充するほか、交通アクセスや情報発信等の課題解消に取り組む、観光資源化を促進する。

- (2) スポーツの活用により観光を推進・活性化するスポーツ・ツーリズムを沖縄に根付かせるため、サッカーキャンプやサイクリングイベントなどのモデル事業を実施する。
- (3) 安全・安心なダイビング環境を構築し、海外からのダイバーを受け入れる基盤を整備するため、ガイドダイバーの養成、セミナーの開催、新事業モデルの開発を行う。
- (4) 時間やお金に比較的余裕のあるシニア層に対する沖縄ロングステイ・スタイルの提案や、体験・滞在型の観光メニューの紹介により、長期滞在を推進する。
- (5) 自然環境等の保全に配慮し、地域活性化に資する持続可能な観光形態であるエコツーリズムを推進するため、エコツーリズム理念を遵守したプログラムメニューの情報発信、地域コーディネーターの人材育成を行う。
- (6) 沖縄に適合した医療ツーリズムのあり方を確立するために、推進団体や事業者等と連携して受入体制の構築・高度化を図るとともに、県外・海外へのプロモーションを推進する。
- (7) 新たな形の教育旅行の創出を目指し、事業者等の取組みを支援するとともに、海外教育旅行の誘致・受入を推進するため、子ども達及び教育関係者の相互交流の機会を提供する。

《2. 付加価値の高い旅行メニューの推進》

- (1) MICE誘致を拡大するため、国内外のMICE関係見本市や商談会への参加、MICEセミナーの開催により、旅行業界等における認知度向上を図るほか、キーパーソンの招へい等による県内事業者の商談機会を創出するとともに、事業者の海外セールス活動を促進する。
- (2) 沖縄リゾートウエディングの積極的な情報発信を行うとともに、関連業界と連携し、受入体制の強化を図る。また、国内外における誘客事業を展開し、新たな市場を開拓する。

【戦略4】観光客の受入体制の整備

《1. ホスピタリティの向上》

- (1) 県民一体となった受入体制を構築するため、県、(財)沖縄観光コンベンションビューロー、観光関連団体等で構成する「めんそーれ沖縄県民運動推進協議会」を中心にクリーンアップキャンペーンや「かりゆしウェア」の普及促進など、沖縄らしさの演出に努める。
- (2) 観光立県として官民一体となった受入体制の強化を図り、より質の高い観光地を目指すため、8月を「観光月間」とするなど観光推進運動を全県的に展開し、県民の沖縄観光に対する理解と当該運動への積極的な参加を促す。

《2. 観光人材の育成》

- (1) 将来の観光産業を担う高度な人材の育成のため、海外ホテルスクールへの留学生の派遣費用を支援するとともに、観光関連産業の経営層に対しセミナーを実施する。
- (2) 観光客へのホスピタリティの向上を図るため、観光関連企業等が行う人材育成に係る研修費用を一部支援する。
- (3) 外国人観光客の受入能力向上のため、海外の習慣等に関するマニュアルを作成し、観光関係団体に周知するとともに、観光客に直接応対する観光産業従事者に対して、語学研修の支援を行う。
- (4) 今後増加が見込まれる中国人観光客受入のため、観光関係施設への中国人観光客受入アドバイザーの派遣事業を行う。

《3. 人に優しい観光地づくり》

- (1) 沖縄県内の主要観光地等を対象とし、多言語観光案内サインの統一的な整備を行う。
- (2) バリアフリーに対する意識啓発セミナーの開催や、車イス等の観光バリアフリー機器の貸し出しを行っているNPO団体等を支援するほか、観光におけるバリアフリーの方向性の検討を行う。

《4. 外国人観光客の満足度向上》

- (1) 外国人観光客に対応した海外カード対応のATM導入支援や、公共的施設等におけるWifi機器の導入を行う。
- (2) 県内事業者の多言語表示や、語学検定受験料の支援による従業員の自己啓発等を促進するほか、コールセンターの設置による観光客への情報案内等を実施する。
- (3) 地域限定通訳案内士の育成を図るとともに、急増する外国人観光客へきめ細かい対応をするため、沖縄特例通訳案内士制度の運用に必要となる事業計画を策定する。

《5. 自然環境等の保全・共生》

市町村が行う観光資源の保全、環境教育及び保全活動や木道・エコトイレ等の施設整備を支援するほか、観光関連事業者の環境負荷軽減に対する取組事項をまとめた「グリーンガイド2012」の普及啓発を図り、環境に配慮した環境共生型観光を促進する。

《6. 着地型観光の推進》

- (1) 地域の特色を生かした着地型観光商品を創出するため、地域関係者や旅行会社等と連携してモニターツアー等を実施する。
- (2) 観光誘客の拡大につながるエンターテインメントを創出するため、地域観光協会や民間企業等の自主的な取り組みを促進する。

《7. 安全・安心の向上》

- (1) 台風来襲時において、空港に滞留する観光客に対し、宿泊施設の紹介、ブルーシートの配付、一時避難所の提供等の支援を実施する。
- (2) 地震・津波を含む大規模災害の発生時に観光客の安全を確保する取り組みを推進するため、セミナーの開催、モデル地域におけるワークショップや訓練等を実施する。また、観光関係者や観光客向けの災害等情報配信システムの活用を促進する。

復帰40周年記念事業

第6回太平洋・島サミット県支援事業

開催日：平成24年5月25日(金)～26日(土)

場 所：沖縄本島、宮古島市

太平洋島嶼国・地域が直面する様々な問題について意見交換を行う首脳会議（名護市）の開催にあわせて、県主催の歓迎交流行事を行う。そのひとつとして「環境」をテーマとした「高校生太平洋・島サミット」（23日～26日）を宮古島市で行う。

日本オープンゴルフ選手権競技

開催日：平成24年10月11日(木)～14日(日)

場 所：那覇ゴルフ倶楽部（八重瀬町）

国内屈指の男子ゴルフトーナメント。日本のトッププロ・アマチュアが出場。4日間72ホールストロークプレイ。沖縄開催は初。

世界エイサー大会2012

開催日：平成24年10月6日(土)～7日(日) 開催予定

場 所：奥武山公園（那覇市）

世界各地から集まった創作エイサー団体の頂点を決めるコンテストのほか、古くから継承されてきた伝統エイサーを披露する。

沖縄・中国新時代交流プロジェクト

「Dynamic Asia !

ウチナー ルネサンス フェスタ」(仮称)

～日・中・沖による文化友好祭開催～

開催日：平成25年2月開催予定

場 所：宜野湾コンベンションセンター

日本と中国・沖縄を代表するアーティストによる県民参加型交流イベント等を行う。

平成24年度の沖縄県観光関連予算

平成24年度の沖縄県観光関連当初予算（観光費）は約92億7,000万円となっている。

(単位:千円)

	平成23年度	平成24年度	
	当初予算額	当初予算額	対前年度比
沖縄県全体の当初予算額	608,189,000	680,673,000	111.9%
観光関連予算(合計)	2,207,545	9,270,621	420.0%
①観光客の誘致促進を図るために必要な経費	887,991	6,802,256	766.0%
②観光統計・調査、計画策定、関係機関との連絡調整等に要する経費	180,175	332,114	184.3%
③観光客の受入体制の整備等に要する経費	384,520	1,088,989	283.2%
④沖縄コンベンションセンター・万国津梁館の管理運営等及び各種コンベンション誘致・支援に要する経費	302,585	526,483	174.0%
⑤その他(沖縄観光コンベンションビューロー運営経費等)	452,274	520,779	115.1%

※当初予算額であり、補正予算は含まない。

平成24年度の主なイベント

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
琉球海炎祭2012	■											
トライアスロン(宮古島市・石垣市)	■											
太平洋・島サミット		■										
ハーリー(那覇・北谷・糸満など県内各地)		■	■									
海洋博公園サマーフェスティバル2012				■								
キジムナーフェスタ2012				■								
夏祭りin那覇2012 一万人のエイサー踊り隊					■							
夏の全島闘牛大会					■							
第57回沖縄全島エイサーまつり						■						
第48回青年ふるさとエイサー祭り						■						
第19回首里城公園「中秋の宴」						■						
第42回那覇大綱挽まつり							■					
日本オープンゴルフ選手権競技							■					
琉球の祭典2012							■					
開園20周年記念 平成24年度首里城祭							■					
第2回マリニックップin沖縄							■					
世界エイサー大会2012							■					
ツール・ド・おきなわ2012								■				
第32回全国豊かな海づくり大会～美ら海おきなわ大会～								■				
第28回NAHAマラソン									■			
第21回首里城公園「新春の宴」										■		
沖縄北部桜まつり(本部町、今帰仁村、名護市)											■	
プロ野球春期キャンプ、プロサッカー冬季キャンプ												■
第21回2013おきなわマラソン												■
第26回ダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメント												■
沖縄国際アジア音楽祭 musix2013												■
第5回沖縄国際映画祭												■



Japan. Endless Discovery.

【編集・発行】

沖縄県文化観光スポーツ部観光政策課
TEL:098-866-2763 FAX:098-866-2767